



2019 年度活動テーマ(案)「JOSO 食材でかんたん・おうちゴハン」

食品ロスからみえる、 私たちのくらし見直し



資料：総務省人口推計(27年度)
平成27年度食料需給表(概算値)

参考：農水省「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」より

2019 年 4 月の予定

●生協基幹運営／地域活動・催し●	●提携・協同・連帯企画●
<p>4月ゴンタの丘「常総っ子応援団」は毎週木曜日に活動しています。試食会は4月25日に行います。</p> <p>4/8(月) 脱原発とくらし見直し委員会</p> <p>4/13(土) 福島スタディツアー</p> <p>4/17(水)、20(土) 総代会前総代・組合員懇談会</p> <p>4/24(水) 定例理事会</p> <p>4/25(木) 東海第二原発訴訟 第25回口頭弁論</p>	<p>4/12(金) 生協ネットワーク21 専務交流会</p> <p>4/14(日) 関東子ども健康調査基金 医師懇談会</p> <p>4/19(金) GMOフリーゾーン全国集会反省会</p> <p>4/21(日) 甲状腺エコー検診 in 流山</p>

●私たちの食品ロスの大きさは？

WFP（国際連合世界食糧計画）の2014年食糧援助量が320万トン

日本の食品ロス量は646万トン

世界の年間食糧援助量の約2倍相当量を廃棄していることが分かります。

私たちの食生活や、くらしの在り方を考える必要があります。



食品ロスの原因

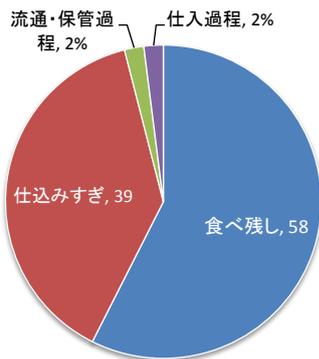


【食品メーカー・卸・小売店から】

- 定番カット食品 = 規格変更で店頭から撤去された食品
- 売れ残った食品 = 期限切れで販売できなくなったもの
- 規格外品 = 製造過程での印字ミスなどにより販売できなくなった食品



参考：食品循環資源再生利用等実施調査報告（農水省）

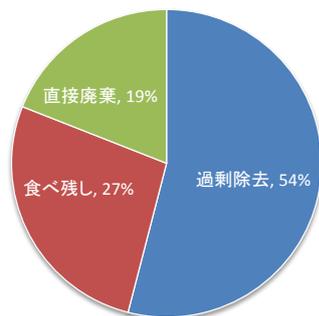


【飲食店から】

- 食べ残した料理
- 提供できなかった仕込み済みの食材



参考：食品循環資源再生利用等実施調査報告（農水省）



【家庭から】

- 過剰除去 = 皮を厚くむき過ぎたり、とりすぎた部分
- 食べ残し = 作りすぎなどで食べ残された料理
- 直接廃棄 = 冷蔵庫に入れたままにしたり、調理されず食卓に上がらなかった食品



参考：食品ロス統計調査（農水省）

常総生協では、「もったいない」精神が根付いています。例えば、味噌仕込み用の大豆です。市場の規格では、色・形・大きさに選別し、規格外とはじかれてしまう大豆も、食用には問題ありませんし、味噌にしてしまうならなおさら、見た目にとらわれず、無選別で使用してもおいしい味噌ができる事を知っています。

また、野菜セットなどは、見た目で規格外とされてしまう形に育ったものでも、食べるには問題がないと言う事を組合員が理解して利用しています（しかも、無農薬栽培という安全面での付加価値付

きです)。生産現場と生産者の想いを知っているからこそ、食べ物に対しての「もったいない」気持ちが自然と食品ロス削減につながっているのです。さらに、食品ロスの原因に「外食」もあげられています。レストランで運ばれてくる料理が食べきれなくて残ってしまったという経験はありませんか？ですが、家庭では、家族の食べる量を見計らって料理を作ることができるので、自然とお残しも減ります。

また、無農薬・無化学肥料栽培だからこそ、大根や人参の葉の部分や皮ごと食べることができます。家庭で料理をすること（おうちごはん）は、外食が減る事による事業系食品ロスの削減と、家庭での食品ロスの原因（過剰除去・食べ残し・直接廃棄）を見直し、家庭系食品ロスの削減にもつながります。

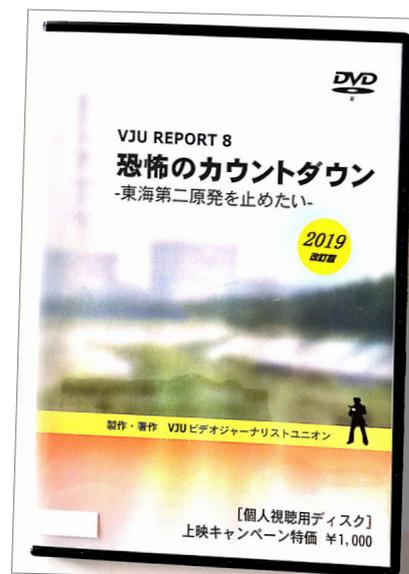
このような食に関係する問題は、社会全体を考えれば、大事なことだとわかっていても、忙しい日常では料理に手間暇をかけてる時間がなく、行動として表せない事もあるのではないのでしょうか？常総生協の2019年度活動テーマ（案）「JOSO 食材でかんたん・おうちごはん」を提案しています。組合員同士の交流による知恵と工夫から生まれた常総生協の食材を活かした「かんたん」料理のアイデアで、楽しい「おうちごはん」につなげていければと思います。

★【我が家ではこう活用している！食品ロスを削減（軽減）するアイデア募集！】のチラシを今週配布しています。組合員さんの知恵と工夫を、ぜひ教えてください。

ぜひ借ってみて！ 脱原発委員会よりおすすめDVDの紹介！(^^)!

恐怖のカウントダウン

「東海第二原発を止めたい」



制作・著作 VJUビデオジャーナリストユニオン
2018年制作 / 2019年改訂 30分

（内容紹介）※VJUビデオジャーナリストユニオンHPより抜粋

日本原電が東海第二原発の運転延長を申請、着々と再稼働への途を進め、2018年11月7日に原子力規制庁がこれを認可しました。しかし、運転開始から今年で40年を迎える東海第二原発には、多くの技術的欠陥があります。30km圏内に約100万の人口を抱えた原発で過酷事故が発生すれば、どれだけ被害が出るのか想像もつきません。

今回のキャンペーンで頒布するDVD「VJU REPORT Vol.8 恐怖のカウントダウン -東海第二原発を止めたい-」では、東海第二原発の問題点や周辺自治体・住民の声などを現地東海村で取材、一人の原発事故避難者の目を通じて、迫り来る危機に警鐘を鳴らします（完成尺30分）。改訂版では、茨城県が進める住民説明会

の様子なども加わっています。DVDを使ってぜひ広い議論を喚起してください！

（視聴した組合員さんからのおすすめコメント）

説明も映像も大変クリアです。なぜ今、老朽化した東海第二原発を止めねばならないのか、様々な人がそれぞれの立場で再稼働の危険性を述べています。再稼働を許可した規制庁さえ、安全性を保障していないのです。大変分り易いので、家庭の中で多くの方に見ていただき、再稼働反対の声が、大きくなって欲しいです。

（備考）

多くの方に見て頂きたい為、こちらのDVDは、**当分の間1週間貸し出しとさせていただきます。**ご了承ください。

注文用紙の組合員意見欄もしくは、生協本部（02971-481491）までお電話下さい。

生協職員に聞きました!! 2011年3.11あの時の状況と、感じたこと。part3

●大学4年生でした。

当時友人と遊んでいました。地震が発生し、テレビをつけると津波が住宅を飲み込む様子を見て、「これは今本当に日本で起こっていることなのか？」と理解できずにいました。翌日福島第一原発事故が起こった直後、母親から「外には出るな！雨にはうたれるな！」との電話をもらい、ただ事ではないと理解することができました。

「関西の親戚からすぐにこっちに帰ってこい。」との電話をいただき、約1か月放射能から避けて生活することができたことは今でも感謝の気持ちで一杯です。いつか原発がなくなる日を祈っています。

(商品部 伊原)

●8年前の3/11は金曜日で取手の西地区を供給していました。

あのころ私は供給部の新米で「来週から新コースを担当する。頑張らなきゃ。」といった心境でした。午後2:46.トラックの荷台で荷物を降ろしていたときに地震が発生。最初は車が揺れてる？くらいの感覚でしたが次第に揺れは大きくなり荷崩れしそうな荷台を押さえに行った記憶があります。そして福島第一原発の話。当時はほうれん草が出荷規制になったり「原発事故で今後関東の食べ物は食べられなくなるのか？」と考えてました。当時の出来事の中で石巻の高橋徳治さんの工場へ泥さらいに行ったことが一番印象に残っています。現場での臭いやライフラインの復旧していない工場内。元の工場は写真でしか見たことがありませんでしたが、こんなにも変わってしまうのかと落胆しました。

あれから8年。毎年その日が近くなるとメディアではとりあげますが、もっと現状を映してほしいですもっと産地に寄り添った生協でありたいと思います。

(供給部 大橋)

●8年前の3月11日

供給を途中で交代してもらい、TX沿線を平行に走る高架道の上を、本部に向かって走っていました。走行中ハンドルが左右にとられたので、「風が強いのかな」と脇の木々を見たが揺れていない。おかしいと思い、隣のTXの線路を見ると電柱が飴のように曲がり、初めて地震とわかりました。

その時思い出したのが、「阪神淡路大震災」の高速道路が倒壊している映像で、慌ててスピードを上げ、安全な場所に車を止めました。大きな災害の教訓は、必ず生かされると感じた瞬間です。あれから8年が経ち、さまざまな災害が起こっています。大きな犠牲の中にある教訓は風化させず、生かしていかなければいけないと毎年感じています。

(物流 G 萩原)

●8年前は他生協で働いていました。

激しい揺れと悲鳴の中で、机の下に隠れたことを今でも覚えています。ふと窓を見ると、高層ビルがしなっているようでした。その日は都内の公共機関全線がストップし、会社で夜を過ごしました。空腹のまま新宿から池袋まで歩き、半日かけて社宅に帰りました。地震、津波、原発と次々に問題が明るみになり、生協組織にしながら現場の状況が全く見えませんでした。

現在は常総生協に所属し、生産者や組合員と関わりを持つ中で、いかに原発が危険であるか、また生産者が今でも風評被害に悩まされていることがわかりました。8年前の出来事を風化させず、地域生協として生産者の支えになれるようがんばっていきたいと思います。

(商品部 小宮山)